



Title	サブカルサブリ第20回：「サイタマ記憶遺産」発信を
Author(s)	山村, 高淑
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2012-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/50317
Type	column
Note	埼玉新聞2012年3月25日版、特集「サイタマニア」、p.2
File Information	20120325Saitamania subcul suppl No.20.pdf



[Instructions for use](#)

山村高淑の

サブカル サプリ

アニメや漫画の舞台地が多いサブカル王国・埼玉。その魅力を「アニメツーリズム」の専門家、山村高淑氏が紹介する。



アニメや漫画はその時代時代の庶民文化の重要な記録の一つです。当時の人々の暮らしや風俗、町の風景が描写されているばかりでなく、世相も色濃く反映されていたりします。もちろん大多数の作者は時代を記録することを意図して作品を創作しているわけではありません。しかし、そこに描かれている内容は、やはり歴史的記憶として非常に資料価値が高いものだと思います。

例えば現在の私たちは歌舞伎作品を見て江戸時代の庶民の生活や価値観に思いを馳せたりします。歌舞伎が当時の世相を反映した娯楽作品であったことを考えれば、やはりそれと同じことがアニメや漫画の多くに当てはまると思うのです。昨年5月に、炭鉱記録画家・山本作兵衛による筑豊の炭鉱画約700点が、後世に伝えるべき価値のある記録物としてユネスコの「世界記憶遺産」に登録されました。日本における膨大なアニメ・漫画作品に描かれた社会の記憶は、こうしたユネスコ記憶遺産に匹敵する、次世代に残すべき価値のあるものだと個人的に思っています。

◇
そう考えてみると、埼玉を舞台にした作品は、「サイタマ記憶遺産」と言えるのかも知れません。例えば、「旅もの」「温泉もの」など、独特の作風で熱狂的なファンを持つ(私も大ファン!)つげ義春先生。日本各地を題材に作品を描かれていて、『つげ義春を旅する』(高野慎二2001:ちくま文庫)という「巡礼本」も出ているほどなのですが、埼玉県もしっか

「サイタマ記憶遺産」発信を

り描いて下さっています。羽生市を描いた短編漫画『枯野の宿』(1974)、秩父と柴原鉱泉を描いた紀行文『秩父の鉱泉と札所』(1986)という作品です。

一つ目の『枯野の宿』は、つげ先生の十八番私小説的漫画作品。賃貸住宅暮らしの主人公が「自分の家を持つことができれば生活費の1/3を占める家賃から解放され仕事も1/3少なくてすむ。その他もろもろの精神的圧迫も1/3軽減される」との動機から、土地探しに羽生を訪れるという話。「羽生を選んだ理由は何もない。東京からこれくらい離れたらなんとかなるだろう」という腹だった」と、当時の東京人の距離感もわかります。

結局予算に見合う物件が見つからず、雨にも降られてびしょ濡れ。失意のうちに利根川沿いの渡し船の見える古宿に泊まる……という淡々としたお話なのですが、利根川の風景が非常に印象的に描かれていて、不思議に心に残る作品です。羽生を描いた作品と言え、明治の文豪・田山花袋の『田舎教師』が有名ですが、こうした同じ土地を舞台にした作品を読み比べてみるのも一興です。

二つ目の『秩父の鉱泉と札所』は、紀行文。当時、漫画を描くのが年4作ほどだったつげ先生。「あまりの寡作に先行きが案じられ、他の収入を得る方策として」紀行文を練習していたそう、本作もその一つだそうです(つげ義春2003『つげ義春の温泉』カタログハウス)。内容は、ご自身と奥様、息子さんの3人で、秩父の鉱泉と観音霊場を旅したときの

ことを淡々と写実的に記したものの。文学的にもなければ、決して名文でもない。でも、先生の漫画作品同様、だからこそ、しみじみと不思議に心に沁み込んでくるものがあるのです。漫画も紀行文も、かなり赤裸々に先生の苦悩や生活臭が投影されていることもその大きな理由かも知れません。同紀行は、西武鉄道開通後、次第に開け行く秩父を「ちよつぴり不満」としながらも、「それでも秩父は何故か好きで飽きない……中略……帰途の電車から武甲山を真近に見ると、今日もどんより雲をかぶっていた」というくたりで終わります。これなどは風景の描写を通して淡々と私小説的にモノを語る「つげ式」表現の真骨頂だと思います。

◇
このように埼玉を舞台にした作品を、その当時の埼玉が記録されている作品「埼玉の記憶」として捉えようと、作品も、舞台探訪も、より一層味わい深く、奥深いものになると思っています。

埼玉県さん、『埼玉「超(ちよ)」観光立県宣言!』(2010)で「世界遺産なし」と潔く開き直っていて非常に好感を覚えるのですが、ここは一つ、県独自で古文書から文学作品、アニメ、漫画まで、「サイタマ記憶遺産」リストを創って、ローカルな価値を世界に向けてどんどん発信していくのが良いと思います。この意味では埼玉は本当に豊かな資源・遺産を持った県なのですから!